



社会 教育

## 「つながり」と「対話」を大切に

令和3年度学社連携・協働フォーラムから

令和3年度学社連携・協働フォーラムは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、Zoom ウェビナーを利用したパネルディスカッションというかたちで開催しました。当日視聴していただいた皆さんには、チャットとアンケートをとおして参加していただきました。パネルディスカッションで語っていただいたパネラーのみなさんの経験や思いと、寄せられた感想を紹介したいと思います。

### パネルディスカッション

～人がつながり、未来につなげるコミュニティスクール～

ファシリテーター

文科省 CS マイスター 西 祐樹 さん

パネラー

王滝小中学校長 宮坂 寛 さん

大町北小学校学校支援ボランティア代表 中村 真由美 さん

塩尻市地域連携コーディネーター 池上 良満 さん



## 【人とのつながり】

### 学校・地域住民同士の対話が大事！

西：「会議」（学校運営協議会）と言うと敷居が高く感じるので、前段階でカフェのような別の対話の場面が必要かもしれない。

【宮坂】：王滝未来カフェ 地域・保護者・学校合同の熟議の場

【中村】：北小カフェ「学校の縁側」地域の様々な立場の方が集まり、語り合う場

【池上】：カフェ丘 丘中学校での取り組み。地域の人、生徒が自由に交流できる場

中村：話すのが楽しいから色々な人がカフェに集まる。カフェをとおして地域の住民同士が話をする事で共通のワードができ、熱い話ができる。人と話すと気が付くことがたくさんある。運営協議会の中で対話できる時間もとれるようになってきた。

### 学校と地域との調整を運営協議会で！

西：地域と学校の調整をしづらいとか時間がない、という話をよく聞く。でも逆に学校運営協議会をやることで細かい調整はいらなくなった、ということもよく聞く。運営協議会をやることで、日程調整などもすべてそこでできる。

池上：塩尻では運営協議会と地域学校協働本部の他にCS懇談会として小委員会（校長・教頭・教務主任、CSの会長、学校支援コーディネーター等）を行い、細かい調整はその小委員会で行っている。

## 思いを共有すると話し合いが盛り上がる！

池上：子どものことに関して「こんなことしたいあんなことしたい」そうなってくると盛り上がってくる。子どもの頃にこんなことしたよね。子ども達にもやらせてあげたいよね、と。

宮坂：**思いを共有するのは大事**。王滝で運動会をするときに「昔はこんなことをやってね」と話してくれる地域の方がいる。こんなやり方もある、という話から**実現に向けて動いていることが見えてくると話し合いの意味も深まる**。

西：学校、地域、教育委員会がみんなで話し合うことは、これからの子どもたちにはこちらのやり方がいいんじゃないか、というベクトル合わせの面もある。逆に「今ってそうなんだ」という**大人の学びにもなる**。

形式にばかりとらわれていたが、対話を通して探っていくことからスタートでもよいのではないかと考えることができました。(学校職員)

つながっていない人をつなげ、対話を始めること。その積み重ねがCSをつくっていくのだと感じました。(大学職員)

学校(先生、生徒)、保護者、地域の方々を巻き込んだイベント等のコミュニケーションの「きっかけ」作りを行いたいと思います。まずは接点を増やすところから始めたいと思います。(PTA)

## 【未来へのつながり】

### 大人の姿を子どもたちに見せたい！

### 当事者意識をもって楽しもう！

西：コミュニティスクールや運営協議会が、地域と学校が一緒になって動けるパワーを持って何かを変えられる場であってほしい。**大人が何かを変えていくという姿や、大人が楽しんでいる姿、大人が変わっていく姿を子どもたちに見せることが、子どもたちにとって大きな学びになる**。

池上：コロナだからこそ、できることをやろうとしている学校や地域もある。学校の中で駄目なら地域に子ども達が出ていくのはどうか、と。地域に出てお願いして回ることで、**大人が地域のことを知ることができた**、とPTA会長が話してくれた。

中村：学校のための活動、子どもたちのための活動、地域のためになる活動を**マッチングさせる**ことが必要。それぞれの動きに合わせてやるとアクションが起こせない。地域だけで活動を起こし、子どもたちを巻き込みながらやっているうちに先生たちも興味を持ってくれる例もある。**大人が楽しく活動することが大事**。

宮坂：地域のお祭りなどを一緒にできないかと考えている。その話し合いの中でキーパーソンになるような人が生まれてくるんじゃないか。王滝は学校に思い入れのある人がとても多い。学校職員はいつまでもいられるわけではないので、**地域から「私たちがやるよ」という人が増えてほしい**。無理なく楽しく活動することが大事。楽しい活動は続いていく。

西：コミュニティスクールを通じて**当事者意識**をもって関わってくれる人がいると、持続可能な活動になっていく。**みんなが決めたことだからみんなで考えていきましょう**、となっていくと、未来に向かってらせん状につながっていく。

本地区の中学校では子どもたちが熟議をし、その声を地域の方々と共有する取り組みをしています。さらに小学生にも拡大したいと思いました。(学校職員)

まずは新しいものに目を奪われず、現在行われているものを振り返り、発展させることを目指したいと思います。(PTA)

楽しく前向きにCSを進めていらっしゃる方々のお話を聞くことができました。西さんの「子ども達に大人の楽しそうな姿を見せることが大切」という言葉が印象的でした。(学校職員)

## 【明日からやりたいこと・これからのアクション】

【西】：「**全国の教育委員会、学校、地域をつなぐ!**」

いろいろな対話の渦を作っていきたい。  
おもしろい大人がいるということ子どもたちに  
知ってほしい。

【池上】：「**「根っこ」でつながる**」

拠点づくり（活動の拠点、心の拠点）を大切に  
したい。楽しかったという思いの共有をめざしたい。

【宮坂】：「**想いの共有**」

運営協議会、カフェなどで話したことを次の人  
につなげる。今回のチャットも想いの共有になる。

【中村】：「**「やりたい気持ち」を感染させる**」

地域、学校、子どもたちに関わることで自分自身が  
幸せだなあと感じる場所がコミュニティスクール  
だよ、ということを広めていきたい。

子どもたちの事、学  
の事、地域の事、何でも  
良いので、家族だけで  
なく、周囲の人たちと  
気軽に話をしてみよう  
と思います。(PTA)

年に数回地域の方々と話す機会  
はあるけど、生徒との対話は1回のみ。  
もっと生徒を含めて意見を聞くこと  
ができればよいつ感じ、そのためには  
どのようにしていくのがいいかを考  
えたいと思いました。(PTA)

「ホームページを見た」といって、大  
学生の方から連絡をいただき、自分に  
できることがあればボランティアに登  
録させていただきました。情報を出し続  
けることも大切だと感じました。活動  
ではなく思いを伝えつなげていくこと  
が大切だと感じています。(学校職員)

3人のパネラーの経験や思いから、「人と人がつながっていくこと」「思いをつなげていくこと」の大切さを改めて感じました。また、「楽しいから続けられる」「大人の学びになる」「大人が楽しむ姿から子どもが学ぶ」等、ポイントとなる考え方がいくつも示唆されています。

ファシリテーターの西さんからは、「当事者意識を持って関わるのが持続可能な活動につながる」という言葉がありました。今回のフォーラムを視聴し、「この人たちだからできた」ではなく、ぜひ、「自分には何ができるだろうか」と一歩を踏み出していきたいと思います。

また、当日のチャットやアンケートで、視聴していただいた皆さんからたくさんの感想やご意見をいただきました。オンラインでのパネルディスカッションでしたが、みんなでフォーラムを作り上げた、という充実感を感じました。ご協力ありがとうございました。

地域と学校の連携・協働についてご相談がありましたら、中信教育事務所生涯学習課までご連絡ください。中信教育事務所では、これからも「つながり」を大切にしながら地域、学校を支援していきます！

「パネルディスカッションの様子をもう一度見たい」「研修に使いたい」等、ご希望がありましたら、中信教育事務所生涯学習課までご連絡ください。

